

田殿丹生神社にお身代わり神像を奉納

去る3月17日(日)、田殿丹生神社(有田川町出^{いで})で900年近くにわたって守り伝えられてきた主祭神の丹生明神像と高野明神像(平安時代後期)の複製(お身代わり像)が奉納されました。お身代わり像とは、和歌山県立博物館が和歌山工業高等学校と和歌山大学教育学部ミュージアムボランティアの協力を得て、3Dプリンターを用いて文化財の精巧な複製を制作し奉納している事業です。

この事業は近年、全国的に文化財の盗難が多発していることや、人口減少や高齢化などによって管理や保存が困難になっている地域の神社などにある文化財を博物館で保管し、かつ、信仰されてきた環境も従来通り維持するために行われている取り組みです。

田殿丹生神社には、丹生明神・高野明神像が伝来してきましたが、令和3年(2021年)に開催された県立博物館の特別展に伴う事前調査において、平安時代後期(11世紀と12世紀)に遡る県内最古級のものであり、非常に重要な神像であることが確認されました。この貴重

な神像を文化財として長く保存していくために、特別展終了後は県立博物館に寄託されることになり、それに代わるものとして、今回は鮮やかな彩色がよく残る12世紀の神像について、お身代わり像が制作されることになりました。

神像の計測やデータ修正を和歌山工業高等学校産業デザイン科7名の生徒が担当し、高校所蔵の3Dプリンターで出力して樹脂で形を作りました。アクリル絵の具による着色作業は、和歌山大学教育学部美術教育専攻の3名の学生が担当して仕上げました。

奉納日には、高校生3名と大学生1名が神社関係者や氏子の皆さまに迎えられる中、生徒・学生代表から嶋田宮司にお身代わり神像が手渡されました。今回奉納されたお身代わり神像は、今後神社の行事などの際に、より多くの地域住民の方々にもご覧いただく機会を設ける予定です。



高野明神・丹生明神像(左2体)と
お身代わり神像(右2体)

